

### ○ 3 節 - 2 ノリ養殖業・貝類漁業対策

#### ・ノリ養殖対策

#### 1. 養殖施設の適正配置の指導, 育苗期のノリ芽健全度調査の実施, 生育状況の情報提供, 既存の気象海況・生産状況のデータベース化, 養殖管理情報の提供等の技術指導

##### 【これまでの結果】

平成 20～22 年度にかけて集中的に実施した調査により、三番瀬沖合漁場での高温水の有無がノリの生産に大きな影響を与えていることが判明しました。

現在では、高温水の有無など漁場環境の変化にきめ細やかに対応した育成を行うことにより、生産は安定して来ています。

##### 【指導事項】

- ・養殖施設の適正配置の指導、
- ・育苗期のノリ芽健全度調査
- ・生育状況の情報提供

##### 【対応状況】

- ・今年度は 9 月に入ると気温が平年並み前後に低下し、水温も順調に降下したため、9 月 26 日頃から陸上採苗と採苗後の網の張り込みを開始しました。
- ・10 月に入ると台風 18 号の接近が予想されたため、沖の荒れやすい場所を中心に多くの網を冷凍庫に避難し、育苗を継続した支柱柵の網には鉛を設置するなどの波浪対策を施しました。台風 18 号は 6 日に房総半島に接近し最大瞬間風速 28.6m (市川市行徳漁協気象盤) の南寄りの強風を記録しましたが、大きな被害を回避することが出来ました。
- ・その後は再び台風 19 号の接近が予報されたため避難中の網の張り込みを控え、台風が通過した 10 月 15 日以降、網の再張り込みを行い、育苗を継続しました。
- ・台風通過後は水温が一段階降下し 10 月下旬までにはほぼ予定数の種網を確保することができました。
- ・生産に向けた網の展開は 11 月初め頃に開始し、11 月中は順調に水温が降下し伸長状況が上向いたため 11 月中旬に入る頃から徐々に収穫を開始出来ました。

##### 【生産状況】

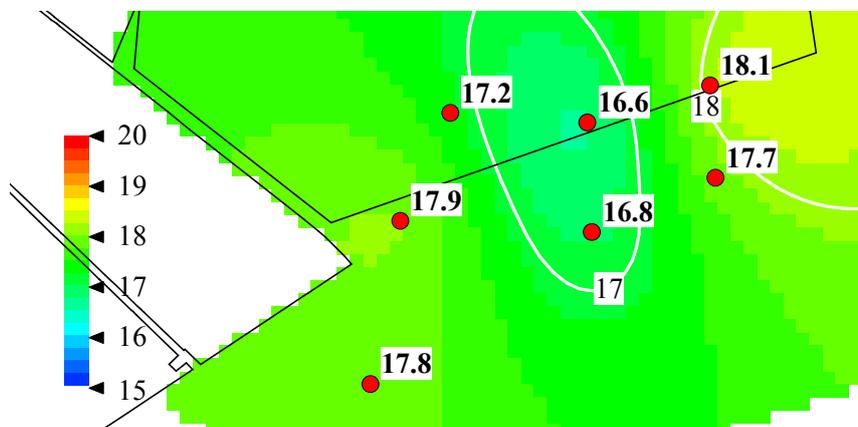
- ・年内は病害の拡大や栄養塩の低下は無く、色調の優れた良質のノリを生産でき、非常に高値で取引されました。
- ・年明け以降も例年と比較して栄養塩の減少は軽微で、色調が良いノリの生産が続いています。

## 「現場における養殖技術指導例」

三番瀬のり漁場調査結果（平成 26 年 11 月 12 日）

東京湾漁業研究所

### 1. 海況



- 表層水温は西大洲・沖大洲付近では 16°C 台に低下。その他の調査点は 18°C 前後。行徳ベタの底層水温は 19.0°C。
- 11 月 7 日に「ふさなみ」が実施した海況調査結果では、内湾中央部底層に 19°C 台の水塊が波及しており、この水塊がベタ漁場底層まで波及している模様。この影響で沖ではやや高めの水温が続いている。

### 2. ノリ芽

- 本日行徳ベタ，東大洲，西大洲，西沖大洲でサンプリングを行い顕微鏡で観察しました。
- 葉長 15 c m 程度に生長し伸び足がついてきた網も見られます。細胞の状態は良好で，死細胞が若干見られる程度でした。

※他地区では巨大細胞が増加し著しく健全度の悪い芽が見られていますが，三番瀬は状況が好転しているようです。

### 3. 今後の見込み

- 冬型が弱く，県全体で芽の脱落や生長不調が見られています。明日以降冬型が強まると予報されており，状況好転が期待できます。

※次回は 11 月 19 日(水)に調査を実施します。